

私は畜産研究部の部長です！将来の夢は酪農家です！

神奈川県立平塚農業高等学校初声分校 園芸科学科 3年 千葉 充月

私はもともと動物の仕事に興味があり、動物園の飼育員になりたいという希望がありました。そこで、動物がたくさんいる高校を探していました。ですが、私が探しているような学校は家の近くにはありません。学校を探しているときに母に神奈川県立平塚農業高等学校初声分校を勧められました。学校のホームページを見ると家からも近いし、園芸科学科でしたが、園芸だけではなく和牛もいることを知り、初声分校を選びました。

入学してからは1年の総合実習でウシの世話を学びました。ただ、そのほかにも学ぶことが多すぎて、学校の勉強についていくので精一杯でした。2年生になり、少し学校生活に余裕ができ始め、動物の世話をしたりする楽しさを感じたいと思い畜産研究部に入部しました。畜産研究部では、ウシの餌やり、小屋の掃除、堆肥の切り返し、ブラッシングなどに加えて地域貢献として学校近くの関口牧場でのお手伝いをさせてもらっています。

手伝いに参加した時にこんなに学校の近くで酪農の仕事の実習ができると知り依託実習先に選びました。依託実習とは2年2学期から3年の卒業まで、自分で決めた実習先に毎週木曜日を使って学校外で実習をする、長期現場実習です。

関口牧場で実習を始めていろいろな体験をしました。人工授精の手伝い、出産介助の手伝い、餌やり、フン掃除、乳搾り等です。実習中に「この仔牛はあなたが産ませたんだよ」といわれてびっくりしました。よくわけを聞くと、畜産研究部で関口牧場にお手伝いに来たときに人工授精を見たことがありました。その時に「ちょっとおさえて」と人工授精用注入器を持ったのです。その時に受精し、妊娠したのが「あなたが産ませた」と言われた仔牛でした。また、産まれたての仔牛の世話を任された時のことです。それまでうずくまるようにしていた仔牛が一生懸命もがいて、自分の足で立とうとしました。掃除する手を止めて思わず見入っていると、やがて仔牛はよろよろしながらも立ち上がりました。なんだか自分のことのようにうれしくなりました。

別の日のことです。関口さんがカーフハッチの中の仔牛に注射をしながら「このウシ、来週はいないかもな…」といいました。そのウシは、下痢が続いていて体力がなくなり、もう立つこともできない状態になっていたのです。通常、動物は立つことができなくなると終わりだといわれています。私は心の中で「がんばれ！がんばれ！」と繰り返していました。その次の週に恐る恐るその仔牛のいるカーフハッチをのぞいてみると、先週とは打って変わって元気に立ち上がっている仔牛がいました。私は思わず笑顔になってしまいました。なんだか自分のことのようにうれしかったです。

私は実習を通じてこのような体験を積んでいき、この仕事自分に向いている、合っていると

思うようになりました。そして、関口さんと将来についての話をしていた時に自分が酪農家として働いている姿が頭に浮かんできました。その瞬間、酪農に携わる職業にすすみたいと決心しました。

関口牧場は酪農教育ファームとして酪農の特性を生かし、子供たちの生きる力を育む「心の教育」「いのちの教育」をするために小学生などを対象に酪農体験や近くの中学生を対象に職業体験を行っています。私はその体験を何度もお手伝いしています。体験内容としては、エサやり、乳搾り、ブラッシング、バター作りをして最後に関口牧場の牛乳を使ったソフトクリームを試食します。初めは酪農に興味になさそうな子供たちや、ウシを怖がっている子供たちさまざまです。エサである牧草をあげるときに、にゅっと首を伸ばすウシにびっくりして泣き出す子。大きさに圧倒されているのか、どうしてもウシのほうに行きたくないと言い張る子。いろいろいました。でも、間近でウシを見たり、触ったり、自分のあげた牧草をもりもり食べる姿を見たりとウシと子どもとの距離が近くなるにつれ「なんでウシはなの?」「どうしたらウシが喜ぶの?」など質問が増えてきます。初めはウシを怖がっていた子供の顔が笑顔になり、帰るときになると「楽しかった」「また来たい」「今度はもっとエサをたくさんあげたい」「自分のうちでも飼いたい(たぶん冗談だと思いますが)」って言っているのを見てきました。私はそれを見ていて、酪農には人を楽しませる力、心からの笑顔を作り出す力、好奇心を生む力があるのを知りました。私はゆくゆくはこの関口牧場のよう、いろいろな人に酪農をアピールして興味を持ってもらうような酪農家になりたいと思いました。

3年生になって、グリーンライフという授業を選択しました。そこではグリーンツーリズムの考え方を基本に新たなビジネスの取り組みについて学んでいます。また、県内の小学生などを対象に私たち生徒が先生の代わりになって小学校や保育園からきた依頼を受けて農業体験をしています。私たちは何も知らない小学生にも農業に興味を持ってもらえるように、農業は楽しいこと、おもしろいことと思ってもらえるように準備をします。これまで私たちが野菜、草花、果樹、畜産の実習で学んできたことを生かして説明文や体験内容を考えています。

これらを学んで私は将来の夢がどんどんしっかりとした形を取り始めました。まずは、酪農ヘルパーとして酪農の技術や経営を学ぼうと思います。日本で一番酪農が盛んな北海道へ行き、色んな牧場の技術、経営を学びすてきな酪農ヘルパーになりたいです。

そして、ある程度の経験を重ねて経営をする自信がついたら、酪農への関心がありません地域や酪農を知らない興味がない子供たちがたくさんいるような地域を探して、関口牧場のような「心の教育」「いのちの教育」ができるような牧場を作りたいと考えています。

高校生活を通じて、私は酪農には人を楽しませる力、心からの笑顔を作り出す力、もっと知りたい、もっと学びたいという好奇心を生む力があるということを実感しました。このことを発信していき、私の牧場があるところは酪農をはじめとした第一次産業の理解者を増やし、たくさんの子供たちの笑顔があふれる地域にしたいです。そのために私はこれからも努力を続けていきます。